

# 学会発表

## {国内外学会発表} 指導学生・院生が口頭・ポスター発表を行ったもの

1. 微生物による植物生長促進と廃水を利用した管理型植物栽培の基礎的研究 ○杉浦和輝、二又裕之、金原和秀 平成22年度岡山大学資源植物科学研究所研究成果発表会 2011年3月8日 岡山県倉敷市(岡山大学資源植物科学研究所)
2. 佐鳴湖における脱窒細菌群集の構造と機能の解析 ○倉橋正典、杉浦佳樹、二又裕之 浜名湖をめぐる研究者の会 2010年12月11日 静岡県浜松市(東京大学海洋研究所)
3. 佐鳴湖底泥を用いた塩素化エテン類分解コンソーシアの構築 ○森岡啓幸、上田紘也、山本脩二、倉橋正典、杉浦佳樹、二又裕之 浜名湖をめぐる研究者の会 2010年12月11日 静岡県浜松市(東京大学海洋研究所)
4. 混合連続集積培養系における細菌群集の相互作用と系の安定性 ○Fatma Azwanii、瀬野淳、齋藤保久、二又裕之 日本微生物生態学会 2010年11月24日 茨城県つくば市(筑波大学)
5. 新規クロロエテン脱塩素化集積物の構築と分解特性の解析 ○上田紘也、森岡啓幸、山本脩二、飯倉智弘、杉浦佳樹、木村信忠、二又裕之 日本微生物生態学会 2010年11月24日 茨城県つくば市(筑波大学)
6. 富栄養化汽水湖における微生物群集構造および硝化脱窒能の解析 ○杉浦佳樹、倉橋正典、二又裕之 日本微生物生態学会 2010年11月24日 茨城県つくば市(筑波大学)
7. 有機性廃棄物を利用した微生物燃料電池の長期運転下における発電特性と微生物群集構造の解析 ○山本脩二、鈴木溪、Rubaba Owen、二又裕之 日本微生物生態学会 2010年11月24日 茨城県つくば市(筑波大学)
8. 新規膜電極複合体を設置した微生物燃料電池の発電特性と微生物群集構造の解析 ○Rubaba Owen、荒木葉子、鈴木溪、山本脩二、坂本尚敏、松田厚範、二又裕之 日本生物工学会 2010年10月28日 宮崎県宮崎市
9. 生ゴミ活用型微生物燃料電池の発電特性と微生物群集構造 ○山本脩二、荒木葉子、Rubaba Owen、鈴木溪、坂本尚敏、松田厚範、金原和秀、二又裕之 日本生物工学会 2010年10月28日 宮崎県宮崎市
10. 閉鎖性汽水湖における窒素循環に関与する細菌群集構造の解析と潜在的除去能力の評価 ○杉浦佳樹、倉橋正典、二又裕之 日本陸水学会 2010年9月18日 青森県弘前市(弘前大学)
11. 異属三菌株混合連続リアクターにおける挙動と相互作用解析 ○瀬野淳、Fatma Azwani、水野奈央子、山本脩二、二又裕之 日本土壌微生物学会 2010年5月21日 東京都文京区(東京大学)
12. Dynamics of bacterial community structure in a chemostat culture. ○Fatma Azwanii, Jun Seno, Naoko Mizuno, and Hiroyuki Futamata. Pusan National University-Shizuoka University joint symposium and Graduate students forum for Promotion of the DDP. 2010年2月5日 静岡県浜松市
13. Electricity generation from organic waste by microorganisms. ○Rubaba Owen, Yoko Araki, Hisatoshi Sakamoto, Atsunori Matsuda, Hiroyuki Futamata. Pusan National University-Shizuoka University joint symposium and Graduate students forum for Promotion of the DDP. 2010年2月5日 静岡県浜松市

14. 連続集積混合培養系における細菌群集の変遷と菌株間相互作用の解析 ○瀬野淳、水野奈央子、平井英貴、大滝明弘、提髪啓太、平石明、二又裕之 日本微生物生態学会 2009年11月21日 広島県西条市(広島大学)
15. “*Dehalococcoides*”集積培養物 TUT2264 の塩化エテン類脱塩素化に及ぼす水素濃度の影響 ○上田紘也、山本脩二、飯倉智弘、二又裕之 日本微生物生態学会 2009年11月21日 広島県西条市(広島大学)
16. Analysis of bacterial interspecies interaction and population dynamics in a chemostat-mixed culture ○Keita Sagegami, Akira Hiraishi and Hiroyuki Futamata アジア・グリーンテック開発センター「アジア地域における炭素循環グリーンテクノロジー」The 1<sup>st</sup> international symposium on green technology for global carbon cycle in Asia 平成21年3月23~24日 長岡技術科学大学
17. Characterization of the dechlorinating enrichment culture TUT2264 with the different organohalides ○Akemi Nose, Shinichi Kaiya, Takashi Kurogi, Hiroyuki Futamata and Akira Hiraishi アジア・グリーンテック開発センター「アジア地域における炭素循環グリーンテクノロジー」The 1<sup>st</sup> international symposium on green technology for global carbon cycle in Asia 平成21年3月23~24日 長岡技術科学大学
18. 脱窒活性を指標とした佐鳴湖の潜在的浄化能力の評価 ○杉浦佳樹、二又裕之 静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト公開シンポジウム 平成21年3月1日 静岡県浜松市、静岡大学
19. 異属細菌間の相互作用と連続集積培養系における細菌群集の動態解析 ○提髪啓太、平石明、二又裕之 日本微生物生態学会 2008年11月26-27日 北海道札幌市、北海道大学
20. Effects of different electron donors on hydrogen production in the dechlorinating consortium TUT2264. ○Yukitomo Yamasaki, Hiroyuki Futamata, Mariko Sugawara, Akira Hiraishi. 日本微生物生態学会 2007年9月15-18日 愛媛県松山市、愛媛大学

{国内外学会発表} 本人が口頭・ポスター発表を行ったもの

1. JSPS 二国間交流事業日本-ベトナム共同研究第1回ジョイントセミナー 題目「塩素系化合物を分解する微生物群集の解析」○二又裕之 2010年12月2日 静岡県浜松市(静岡大学)
2. 日本微生物生態学会 大会シンポジウム 題目「微生物生態系の理解に向けて」○二又裕之 2010年11月26日 茨城県つくば市(招待講演)
3. 微生物を用いた有機性廃棄物からの電気エネルギー生産 Rubaba Owen、荒木葉子、鈴木溪、山本脩二、坂本尚敏、松田厚範、○二又裕之 日本土壌肥料学会 2010年9月8日 北海道札幌市(北海道大学)
4. Dynamics of Bacterial Community Succession and Interaction in a Chemostat Model. Fatma Azwani, Hidetaka Hirai, Jun Seno, Naoko Mizuno, Yasuhisa Saito, Hiroyuki Futamata. International Symposium of Microbial Ecology-13 2010 August 22-27 Seattle USA
5. 連続集積培養系における *Variovorax* 属細菌の優占化と細菌間相互作用 平井英貴、瀬野淳、○二又裕之 日本土壌微生物学会 2009年6月12日 福岡県福岡市(九州大学)
6. Bacterial community succession and performance of mediaorless microbial fuel cell. ○Hiroyuki Futamata, Orianna Bretschger, Jinjun Kan, Andrea Cheung, Rubaba Owen, Kenneth H. Nealson. The 2<sup>nd</sup> Microbial Fuel Cell Conference 2009 June 10-12 GIST (Gwangju Institute of Science and Technology), Gwangju, Korea

7. 攪乱条件下における微生物燃料電池の発電特性と細菌群集構造 ○二又裕之、Orianna Bretschger, Jizhong Zhou, Kenneth H. Nealson 日本農芸化学会 2009年3月27-29日 福岡県福岡市
8. 2-クロロトルエン汚染土壌を接種源とする微生物燃料電池の発電特性と細菌群集構造 二又裕之、O. Bretschger, J. Zhou, KH. Nealson. 日本微生物生態学会 2008年11月26-27日 北海道札幌市、北海道大学
9. 2-クロロトルエン汚染土壌を接種源とする微生物燃料電池の構築と発電特性 二又裕之、O. Bretschger, J. Zhou, KH. Nealson. 日本生物工学会 2008年8月27日 宮城県仙台市、東北学院大学
10. フェノールを用いた連続集積培養系における微生物間相互作用の解析 ○二又裕之、提髪啓太、平石明 日本土壌微生物学会 2008年6月13日 静岡県静岡市、静岡大学
11. Characterization of symbiotic dechlorinating consortium TUT2264 ○二又裕之、山崎亨友、平石明 日本微生物生態学会 2007年9月 愛媛県松山市、愛媛大学
12. Bacterial community dynamics in a chemostat enrichment culture ○二又裕之、大滝明弘、柴田隆久、齋藤保久、花井泰三、岡本正広、平石明 日本微生物生態学会 2007年9月 愛媛県松山市、愛媛大学
13. 連続集積培養系における細菌群集の構造変遷機構の解析 ○二又裕之、大滝明弘、平石明 2006年度 日本農芸化学会 2007年3月25日 東京農業大学(東京都)
14. (招待講演) (発表は全て英語によるもの) - - 題目 還元的脱塩素化コンソーシアの動態と共生系構築の試み (Bacterial community structure and function of a reductive dechlorinating consortium; trend to construct a symbiotic system) ○二又裕之、平石明 日本微生物生態学会 大会シンポジウム 2006年10月30日 東京都文京区
15. Characterization of bacterial community structure and functional genes of *Dehalococcoides*-containing culture exhibiting chloroethenes-dechlorination. Hiroyuki Futamata, Takashi Kurogi, Shinichi Kaiya and Akira Hiraishi. ISME-11 (11<sup>th</sup> International Symposium on Microbial Ecology). Vienna, Austria 2006年8月20-25日
16. (招待講演) 細菌群集構造変遷メカニズムの解析と応用に向けて ○二又裕之、大滝明弘、平石明 2005年度 日本農芸化学会シンポジウム 2006年3月28日 京都市京都女子大
17. 固相脱窒リアクターにおける硝酸除去の動力学的特性と細菌群集構造 ○二又裕之、西川裕貴、平石明 2005年度 日本生物工学会大会 2005年11月 つくば、つくば国際会議場
18. 新規”*Dehalococcoides*”細菌によるクロロエテン類の脱塩素化 ○二又裕之、黒木貴史、海谷慎一、平石明 2005年度 日本微生物生態学会 2005年11月 福岡、福岡国際会議場
19. 新規”*Dehalococcoides*”細菌の脱塩素化能力 ○二又裕之、海谷慎一、黒木貴史、平石明 環境バイオテクノロジー学会 2005年6月 東京、東京大学
20. 連続集積培養系における環境浄化有用細菌 *Variovorax* 属細菌の優占化機構の解析 ○二又裕之、平石明 2004年度 農芸化学大会 2005年3月 札幌、札幌コンベンションセンター
21. Dominant mechanism of xenobiotic compounds-degrading *Variovorax* strains in soil bacterial community. Hiroyuki Futamata and Akira Hiraishi. 1<sup>st</sup> International Conference on Environmental Industrial and Applied Microbiology. Badaboz in Spain 2005年3月15-18日
22. 固相脱窒リアクターにおける硝酸除去の動力学的特性と細菌群集構造との関係 ○二又

- 裕之、西川裕貴、平石明 2004 年度日本微生物生態学会 仙台、東北学院大学
23. Phylogenetic and functional diversity of *Variovorax* isolates for degradation of xenobiotic compounds. ○Hiroyuki FUTAMATA and Akira Hiraishi. ICC-10 (10<sup>th</sup> International Congress for Culture Collections) Tukuba, Japan. 2004 年 10 月 10-15 日
  24. 生分解性プラスチックを用いた固相脱窒リアクターの硝酸除去と細菌群集構造 ○二又裕之、堀場陽子、恒川舞、平石明 2004 年度日本生物工学会大会 2004 年 9 月、名古屋、名城大学
  25. Xenobiotic compounds 分解 *Variovorax* 属細菌群の特異的モニタリング技術の開発 ○二又裕之、平石明 2003 年度水環境学会大会 2004 年 3 月 札幌、札幌コンベンションセンター
  26. *Variovorax* 属細菌群の多様性と難分解性化学物質の分解特性 ○二又裕之、長野弥生、平石明 2003 年度日本生物工学会大会 2003 年 9 月 熊本、熊本大学
  27. Development of a method for functional monitoring of TCE-degrader *Variovorax*. ○Hiroyuki Futamata, Yayoi Nagano, and Akira Hiraishi. In Situ and On-Site Bioremediation. The Seventh International Symposium. Orland, Florida, USA. 2003 年 6 月
  28. フェノール馴用バイオリアクターにおける細菌群集構造変遷メカニズムの解析 ○二又裕之、平石明 日本微生物生態学会 2002 年 11 月 三重、三重大学
  29. トリクロロエチレン高分解細菌 *Variovorax* 属細菌の分解特性とモニタリング技術の開発 ○二又裕之、長野弥生、渡辺一哉、平石明 日本生物工学会 2002 年 10 月
  30. TCE/Phenol degradation by a “high performance bioreactor”. ○Hiroyuki FUTAMATA, Shigeaki Harayama, Akira Hiraishi, and Kazuya Watanabe. The Third International Conference on Remediation of Chlorinated and Recalcitrant Compounds. Monterey, California, USA. 2002 年 5 月
  31. トリクロロエチレンおよびフェノール高分解リアクターにおける *Variovorax* 属細菌の分解特性 ○二又裕之、原山重明、渡辺一哉、平石明 日本微生物生態学会 2001 年 11 月
  32. 土着細菌群集よるトリクロロエチレン/フェノール高分解リアクターの構築と解析 ○二又裕之、原山重明、渡辺一哉、平石明 日本生物工学会 2001 年 10 月
  33. フェノール分解培養槽における TCE 分解能と細菌群集の解析 ○二又裕之、渡辺一哉、原山重明 日本微生物生態学会 2000 年 11 月
  34. Analyses of microbial community structure exhibiting phenol-stimulated degradation of trichloroethylene. ○Hiroyuki Futamata, Kazuya Watanabe, and Shigeaki Harayama Fifth International Symposium on Environmental Biotechnology, Kyoto, Japan. 2000 年 7 月
  35. TCE 汚染土壌における細菌群集構造と浄化機能に及ぼす phenol の影響 ○二又裕之、渡辺一哉、原山重明 日本微生物生態学会 1999 年 11 月
  36. Phenol 資化性細菌群集の TCE 分解能に及ぼす phenol 添加法の影響 ○二又裕之、渡辺一哉、原山重明 日本農芸化学会 1999 年 4 月
  37. TCE 分解能に基づく phenol 資化性細菌の群集構造の解析法 ○二又裕之、渡辺一哉、原山重明 日本微生物生態学会 1998 年 11 月
  38. Relationships between the trichloroethylene-degrading activities and the amino acid sequences of phenol hydroxylases in phenol-degrading bacteria. ○Hiroyuki Futamata, Kazuya Watanabe, and Shigeaki Harayama The First International Conference on Remediation of Chlorinated and Recalcitrant Compounds. Monterey, California, USA. 1998 年 5 月
  39. Phenol 資化性トリクロロエチレン (TCE) 分解細菌の遺伝的解析 ○二又裕之、渡辺

一哉、原山重明 日本農芸化学会 1998年4月

40. 土壤細菌 *Pseudomonas putida* のイオン輸送性 P 型 ATPase に関する研究 (第 2 報) -走化性の機能発現との関連性- 境 雅夫、○二又裕之、松岡隆史、坂本 淳、鮫島玲子、松口龍彦 日本微生物生態学会 1996年11月
41. 植物根圏における特定細菌の標識と検出 境 雅夫、○二又裕之、小倉健次郎、坂本 淳、松口龍彦 日本土壤肥料学会 1996年4月
42. 土壤細菌の増殖に及ぼす無機塩類の影響 ○二又裕之、境 雅夫、坂本 淳、小倉健次郎、森 和男、松口龍彦 日本微生物生態学会 1995年11月
43. 土壤細菌の走化性と環境因子 ○二又裕之、松岡隆史、境 雅夫、松口龍彦 日本微生物生態学会 1994年12月
44. 無菌 *Azolla* の作出とプロトプラスト誘導 ○二又裕之、境 雅夫、河口定夫 日本土壤肥料学会九州支部講演会、1991年9月、佐賀